

# 台湾遠征 試合結果と戦評

(一財) 静岡県サッカー協会中東部支部三種委員会  
中東部トレセン U-15 監督 織田 基

## ① 中東部トレセンU-15 0-5 恵文中学

第一試合は高1相当の年代のチームとの試合であった。相手チームは身体能力の高いメンバーが揃っていたが、事前に想定していたということもあり、落ち着いて試合に入ることができた。開始早々にスピードで突破されて先制されてからは、非常に集中してディフェンスを行うことができた。前線の選手がボールを追い始めたら、ボランチやディフェンスラインが連動し、パスの受け手を潰すというチーム全体でのディフェンスが機能していたように思った。しかしながら、慣れない暑さのせいからか、疲労が見え始めた後半、ラインを上げきれず相手にいいようにカウンターをくらい、立て続けに失点してしまった。

試合後、選手たちは60分間プレスをかけ続けるのは体力的に厳しいということに気付き、プレスをかけるタイミングが重要であるという結論に至った。状況を見極め、チーム全体としてプレスをかけるのか、かけないのかの判断を的確にすることを次戦の課題とした。

## ② 中東部トレセンU-15 0-1 台湾選抜U-14

第二試合は中2相当のチームとの試合であった。身体能力はそれほど高くないが、テクニックに優れている選手が多く、ショートパスをつないでくる戦い方であった。選手たちは第一試合の反省を生かし、ピッチ上でお互いに声をかけ合いながらディフェンスを行った。声での合図によりプレスをかけ、高い位置でボールを奪いシュートまでいくなど、序盤は優位に試合を展開した。だが一試合目の疲労が予想以上に残っており、前半途中からほとんど足が動かなくなってしまった。数人が足をつる中、懸命に耐えていたが、後半残り10分というところでミスをつかれて先制されてしまう。選手たちに点を奪い返すスタミナは残っておらず、そのまま試合終了となってしまった。

試合後、選手たちは2試合で無得点の状況を打破するべく、攻撃面の課題を口にした。前線での‘タメ’ができず、中盤が押し上げられないということを反省点に挙げ、次戦の課題とした。それと同時に、ディフェンス面ではそれなりの手応えを感じているようであった。

## ③ 中東部トレセンU-15 5-0 潭秀中学

第三試合は中3相当のチームとの試合であった。得点を奪うために、チーム全体でペナルティエリアの角あたりにボールを運び、攻撃を展開することを共通理解し、試合に臨んだ。序盤からの的確なタイミングでプレスをかけ、何度も高い位置でボールを奪い、シュートまで持っていくことができた。また、マイボールの際はショートパスをつなぎ、意図した攻撃を実行することができた。ペナルティエリアの角を使うのは、前線の選手だけではないということに気付き、サイドバックが攻撃に参加し始め、前日よりバリエーションのある攻撃が展開できた。その甲斐あって、選手がそれぞれのよさを出し合い、いろいろな形から前線の選手が1点ずつ取るという、チームにとって理想の展開で最終戦を終えることができた。